

主の聖名を讃美いたします。

いつも聖契神学校のため、お祈りとご支援をいただき、ありがとうございます。

例の紫エンドウは寒さの中でも順調に花を付け、紫色のさやがいくつも見えます。神学校正門の斜向かいにある白モクレンのつぼみもふくらみました。玄関横、宣教師宅の沈丁花も開花間近。

あっという間に今年度もまとめの時期。卒業／受験する方々が入り乱れる季節です。この時代の日本に生かされている意味と意義をかみしめつつ、学生と共に献身者として襟を正す日々です。

「また、主にかなった歩みをして、あらゆる点で主に喜ばれ、あらゆる善行のうちに実を結び、神を知る知識を増し加えられますように」(コロサイ1:10)

校長 関野祐二

● 年明け早々の結婚式、そして

冬休み明け授業開始の翌々日、F姉(旧姓U姉)の結婚式がJR新大久保駅近くの教会で挙げられました。礼服で午前の短縮授業を済ませ、電車でワイワイと会場へ。祝辞を頼まれましたが、自分ひとりだけ緊張するのは惜しいので、道連れに神学生たちへ暗唱聖句の依頼。題して、「聖契神学校新約通論風 F先生ご夫妻円満の秘訣七か条 暗唱聖句の巻」。明るい神学校の雰囲気アピールの機会になったでしょうか。参列した多くの在校生と共に、伝道者夫妻の祝福を祈りました。

実はこの休み明けの日、新たな在校生同士の婚約発表がありました。今年度はこれで三件目。先の理事会であわてて慶弔規定を整備したかいはありましたが、それにしても続く時は続くものです。北風がとりわけ冷たい今年の冬ですが、神学校内はすっかり春の風。学びもしっかりと!

● 後期授業もあとわずか

2月に入り、後期授業も先が見えてきました。私の担当している新約緒論、神学概論、新約神学クラスでは、それぞれ選択レポート発表が続いています。昨年のうちから一人一人が自分の取り組みたいテーマを指定された項目内あるいは一定の範囲内で選び、資料集めをし、レポートに仕上げ、15分の発表と質疑。教師の側から知識や資料を提供することの多いクラスも、にわかには活気づいています。人から聞いたことよりも自分が発表したことこそ身につくと申しますから、やはり受けるよりも与えるほうが幸いです。中には、採点に苦慮するほど独創的(?)発表も。

神学概論クラスは教会論に入りましたが、これは教団教派間で最も幅のある分野。何が真に聖書的で、自分はどの伝統と立場に立つのか問われています。神論、救済論、教会論など、教理項目毎の「信徒教育用テキスト」を毎回作成するのがこのクラスの課題。ご苦勞をかけております。

2月26日までに、在校生は2005年度履修届を提出。自分のペースで自由に科目選択をするシステムゆえ、これからの自分を見据えたある種の緊張感が校内に漂っています。今年度よりも科目を減らす人(懲りた?)、最終学年(見込み?)に突入する人、さまざま。慎重にどうぞ。

● キリスト教書籍は売上好調

今年度から、キリスト教書店のCLC東久留米店・M店長が月に一度、たくさんの書籍を車に積んで神学校を訪れ、出張販売をしてくださっています。なるべく在校生の多くいる授業時間帯（後期は火曜昼と土曜昼）を狙っての来訪。玄関前の廊下に長テーブルを出し、えり抜き的神学書がケースごと並べられます。ひとりで書店に行くのもいいですが、みんなであれこれ談義しながら本を選ぶのもまた楽し。かく言う私は売上に貢献しようと、授業が終わって本の前に立ち並び学生背後から、「ソレは絶対買うべきだ」とか、「え？まだソレ読んでないの？」と、アドバイスやら焦りを与える役目（マージンはもらっていません）。人にモノを買わせるのは私の密かな趣味です。資金繰りに苦しむ神学生たちですが、日本語で読める神学書もずいぶん増えましたから、今のうちにたくさん買って読んでほしいですね（洋書も）。神学校時代は、キリスト教専門書の最新情報が飛び交う、貴重な時でもありますから。最近専らC. S. ルイスを薦めています。

● 選択科目「旧約聖書講読」履修者募集中

「ヘブル語文法」は、文字も書けない未知の言語を半年でマスターしようという挑戦的クラス。初級文法とはいえさすがに半年では終わらず、後期旧約釈義に食い込むのが実情です。さらに2005年度は履修者が10名の予想で、ついに担当の本多師より旧約本文を読む講読クラスを別途持ちたいとの提案。理事会の了承を得て、新年度前期、履修希望者がいる程度集まれば（経済的理由です）、選択科目として金曜午前に設けることとなりました。旧約聖書を原語でスイスイ（教師だけ？）読む、エキサイティングなクラスが楽しみです。いずれ新約もそうしたいですね。

● 学生募集、入学試験、そして卒業式

学校への問い合わせや願書用紙請求は、昨年度並みで三十数件。すでに何通か願書が届いており、チャペル後の学生会祈禱会では、多くの受験者が与えられ共に学べるようにと、祈りが積み重ねられています。「地の利の良さ、働きながら学べる単位積み重ね制、寮設備、信徒奉仕者からフルタイム牧師まで対応可能なカリキュラムなど、これからの時代要請に即した間口の広い、しかも本格的な学びが可能な神学校」が我が校のうたい文句。もうひとつ加えるなら、超教派神学校ならではの、多様性に富んだ豊かな交わりでしょうか。看板に偽りなきよう、ますます努力する所存です。「カコモン（過去の入学試験問題）はありますか？」と度々問い合わせを受けますが、「落とすための試験ではなく、学びの必要を痛感していただくための試験ですから、安心して（？）受験してください」と答えることにしています。2月末が願書締切ですから、あと半月です。

卒業予定者は、専門科1名、基礎科1名。学びのまとめと将来の働きのため、特に祈ります。早くも学生会は、当日に備えて合唱の練習に余念がないようです。U兄のチェロの音色も。

● 聖契神学校の予定と祈りの課題

- ・ 献身と学びへの思いが与えられ、来春より本校で学びを始める新入生が、諸教会から多く遣わされるように（正規生10名、聴講生5名目標）。3月4日（金）入学試験のため。
- ・ 卒業を控えた方々の最後の学びと卒業後の働きのため。3月14日（月）卒業式のため。
- ・ 新年度前期、神学英語と組織神学Ⅰをそれぞれ担当する赤星師、関野校長の準備。
- ・ 神学校が学びの充実と教師研鑽、交わりと霊的成長、運営や経済的満たし等の各面で支えられるように。学生と教師の健康、霊性、教会奉仕、家族や働きが支えられるように。